



技術の特集 ～必ずやろう発電機の試運転～

- 発電機のメンテナンス、定期点検
- 電源切り替え方対応の共有
- 地域の結びつきと備えが災害対応の決め手

宗谷農業改良普及センターだより 通巻35号（令和元年6月10日） ■ バックナンバー 宗谷普及センターホームページ http://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/katsudou/ayori_top.htm

アグリチャンネル

豊富町4Hクラブ 天塩町の牧場を視察

効率的な経営を学ぶことをテーマに天塩町の2牧場の視察を実施しました。

視察先は経産牛頭数40～50頭の家族経営で、良質粗飼料の収穫に力を入れることで高収益を実現されていました。両農場とも牛が食べない牧草を収穫する労力やコスト削減の意識と、無駄を削減する工夫として、草地の7割以上の3回刈りの実施や、放牧草の草量を計測して適正な放牧圧での放牧が行われていました。

クラブ員からは、たくさんの質問が挙がり積極的に学ぶ姿勢が見られ、自分の農場に合った経営を考えるきっかけになりました。



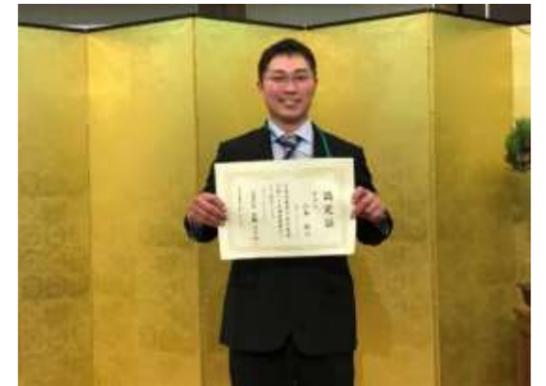
そらのひと

平成30年度 北海道指導農業士・農業士称号贈呈

平成31年2月19日に北海道指導農業士・農業士の称号贈呈式が札幌市で開催されました。宗谷からは農業士に豊富町の山本政人氏(33歳)が認定されました。

「自己研鑽によって経営の安定化に取り組み、酪農や農村生活の魅力を外部に発信していきたい。同時に、研修生の受け入れ体制を整えることによって担い手の育成や確保にも取り組みたい。また、地区や管内の指導農業士・農業士会の皆さんとも連携を深めて地域農業の発展、活性化に力を注ぎたい。」と抱負を語っていただきました。

今後、ますますの活躍が期待されます。



職員紹介

お世話になります。
よろしくお願いいたします。

転入者

宗谷本所



次長 大城 敬二
(留萌農業改良普及センター
北留萌支所より)



主任普及指導員 釣谷 潔
(上川農業改良普及センター
富良野支所より)



主査(地域支援) 田中 致
(釧路農業改良普及センター
釧路東部支所より)

宗谷北部支所



普及職員 立石 愛一
(新規採用)

転出者

お世話になりました。

- 江田美智江 (石狩農業改良普及センター石狩北部支所へ)
- 杉江 賢二 (空知農業改良普及センター本所へ)
- 坂口 哲也 (網走農業改良普及センター紋別支所へ)
- 高橋 智浩 (退職)
- 渡邊 貴文 (退職)

今号の表紙

「コツコツと草地にペレニアルライグラスを追播する若い兄弟経営者。

良い草、良い牛、良い牛乳！を合い言葉にがんばっています」

～ 春一番！追播作業はりきってます～
撮影地 稚内市増幌地区

おしらせ 本紙掲載ホームページのQRコードについて

スマートフォン・タブレットからQRコードリーダーを立ち上げ、読み込ませると本紙掲載ページが開きます。



確立しよう！停電に強い酪農場！！

1 稼働確認は必須です

宗谷では今年度、発電機のリース整備など対応が一気に進んでいます。せっかく導入した発電機です。どのように使うのか？いざというときに動かない、ということがないよう、メーカーからしっかりとメンテナンス・稼働方法を確認しておく必要があります。



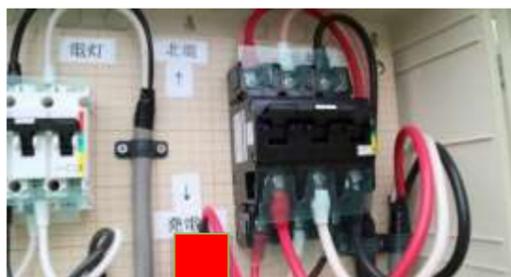
整備した発電機、始動できるか？

3 全員で切り替え方法を共有

実際に発電機の接続稼働を知ることが大切。設置場所、燃料の入れ方、配線コードの場所、つなぎ方・切り替えの必要な流れを確認します。シミュレーションしておくことで、発電機への対応が身につきます。家族だれでも分かり立会えるようにしておきます。

2 接続方法を明記

いざ、発電機を接続する場合、3相電源はつなぎ方を間違えると、モーターの磁界が逆転し、機械の破損につながります。余計なトラブルを起こさないためにも自家の接続手順を切替盤のボックスに記載しておきましょう。



コントロールボックス内側につなぎ方を明記

4 メンテナンスを習慣化

収穫機械のメンテナンスは使う前に行いますが、発電機は基本、定期的な期日を決めて忘れずにメンテナンスをします。1ヶ月に1回・半年に1回行うなど習慣化が必要です。定期的なオイル交換やバッテリーの充電などに稼働できるようにしましょう。また、ミルカーやバルク側のヒューズなど部品の再点検も併せて行います。

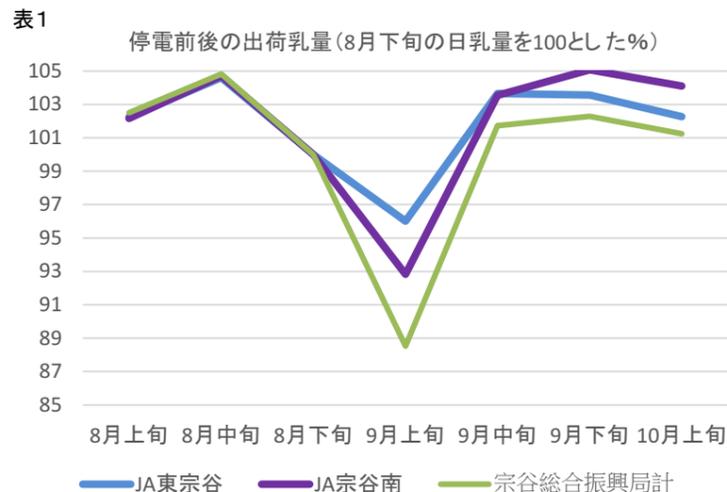


早く確実な設置作業が求められる



搾れるか？

地域の結びつきと備えが災害対応の決め手



平成30年9月に発生した大規模停電では宗谷管内でも生乳生産に影響を及ぼしました。しかし事前の備えや迅速な判断により災害の影響を最小限に食い止めた地域もありました(表1)。2つの農協に災害への対応整備の状況について、お話をうかがいました。

事前の備えと迅速な情報収集・判断

JAひがし宗谷

平成16年に発生した台風18号や平成24年末の暴風雪被害を教訓に、リース会社2社と停電時の発電機の借入体制を整備していました。また、停電が発生した場合は「ほくでん」浜頓別ネットワークセンターより連絡が来る体制とし、それを受け農協内部に非常時の連絡体制として「暴風雪等災害における生乳集荷連絡体制」を整備しました。実際の動きは、

- 「ほくでん」・町村との施策協議
- 交通網の整備
- 生乳集荷

の3部門の班が連携しながら対策を行う体制となっています。平成30年の大規模停電発生時には町村での対策本部が設置される前に組合長に連絡をとり、事前に対応体制を稼働させたことが、被害の軽減につながったと考えられます。

地区代表との連絡体制を整備

JA宗谷南

宗谷南農協では、合併前から枝幸・歌登の両地区で酪農振興(集落行事が主な活動)の活動組織が既に編成されていました。「災害や気象災害に対応できる仕組みづくり」を望む生産者の声をもとに、

- 特定の地区で発生した災害等については、地区代表から農協に連絡
- 農協から地区代表に状況報告の依頼

を迅速に行うために災害緊急事態対策連絡機構を整備し、地区毎に「農業地域協議会」として、緊急時への対応を実施しています。

農協は収集した各災害情報に基づき、職員の現地対応や、必要に応じ関係機関への依頼等の対応を行っています。

災害への備えとして、地域の生産者の連携、非常体制の整備、早期の情報収集と判断が重要と言えます。

コラム column

「あの日を忘れない！」

平成三十年九月六日未明

北海道胆振東部地震がおき、全道がブラックアウトとなりました。宗谷では四十時間余りの停電となりました。当時、牛舎で何が起こったかを改めてふりかえり、停電の教訓として危機意識を持ち続ける必要があります。停電は、明日来るかもしれません。十年後かもしれないかもしれません。わからなからこそ、自分の牛と経営を守る方法を前もって備えておきます。

発電機等に関する知識は後継者にも備えておいてほしいものです。月日が経つにつれ忘れがちな停電への備え。発電機は人が動かして初めて牛と生乳を守ることができます。すなわち、人の心構えも、発電機とともに重要です。

お知らせ
北海道農政部から「酪農経営における停電対策も各農場に配布予定です。こちらも、一読頂き、いざというときの備えに活用ください。(WEB:北海道農政部停電対策で検索ください)

